

D-Case エディタ

設置手順書

2012 年 3 月 31 日 1.20 版

DEOSC

目次

1.	概要	3
1.1.	商標	3
2.	準備	3
2.1.	前提	3
2.2.	必須ファイル	3
2.3.	インストール環境	3
3.	Java のインストール	3
4.	実行環境のインストール	3
4.1.	Eclipse のダウンロード	3
4.2.	Eclipse のインストール	4
4.3.	プラグインのインストール	4
5.	D-Case のインストール	8
5.1.	jar ファイルのコピー	8
5.2.	起動確認	8
6.	テンプレートプロジェクトのインストール	9
6.1.	準備	9
6.2.	インポート	9
7.	EPS 出力サポート	11
7.1.	変換ツールのインストール	11
7.2.	変換シェルの配置	11

1. 概要

本書は、「D-Case エディタ」の実行環境を設置するための手順を説明します。

1.1. 商標

本書に記述された会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

2. 準備

2.1. 前提

「D-Case エディタ」は、以下のコンピュータ環境で動作することを前提に作成されています。

- Microsoft® Windows 7
- Eclipse IDE for Java Developers Indigo Service Release 1

2.2. 必須ファイル

「D-Case エディタ」を構成するファイルとして、以下のファイルが必要となります。

net.dependableos.dcase.diagram.common_xxx.jar

net.dependableos.dcase.diagram.editor_xxx.jar

net.dependableos.dcase.diagram_xxx.jar

net.dependableos.dcase.edit_xxx.jar

net.dependableos.dcase_xxx.jar

※ファイル名の終端にある「xxx」はバージョンにより異なります。

2.3. インストール環境

インストールを行うコンピュータは、インターネットに接続できる環境で行ってください。

3. Java のインストール

Eclipse は JAVA ランタイム 6 以上を必要とします。

下記の URL より Java ランタイムのインストーラをダウンロードし、Java 仮想マシンをインストールします。

<http://www.java.com/ja/download/>

4. 実行環境のインストール

コンピュータに「D-Case エディタ」の実行環境となる Eclipse をインストールします。

4.1. Eclipse のダウンロード

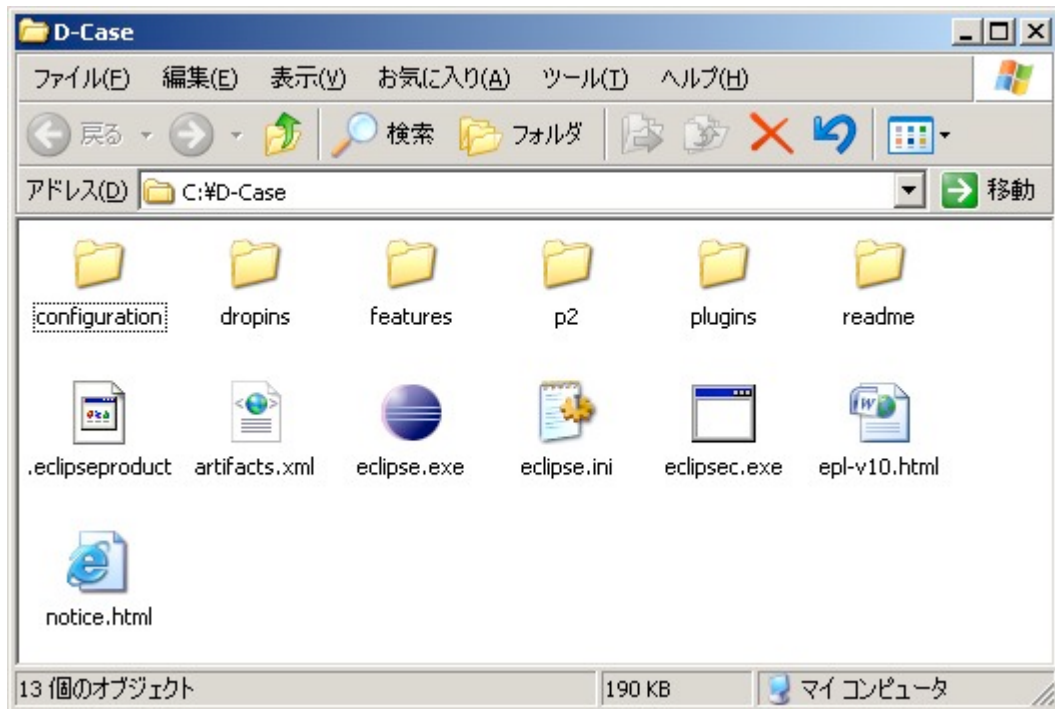
下記の URL より Eclipse IDE for Java Developers のパッケージをダウンロードします。

<http://www.eclipse.org/downloads/>

4.2. Eclipse のインストール

ダウンロードによって取得した Zip ファイルを任意のフォルダに解凍します。

本書では「C:\D-Case」に解凍します。

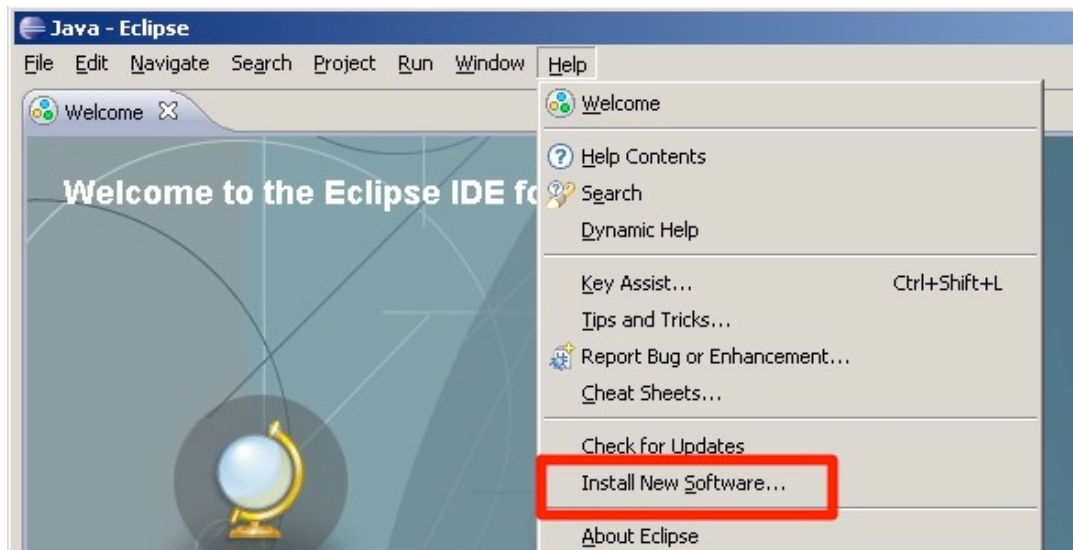


4.3. プラグインのインストール

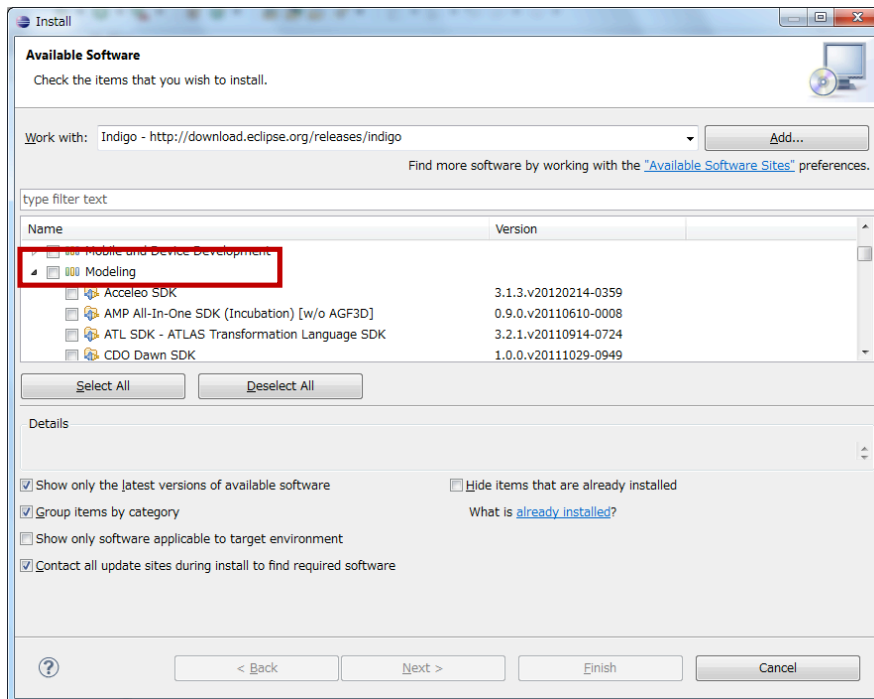
Eclipse 上で「D-Case エディタ」を実行するための必須ファイルを追加します。

Eclipse を起動します。Workspace の場所は任意に選択してください。

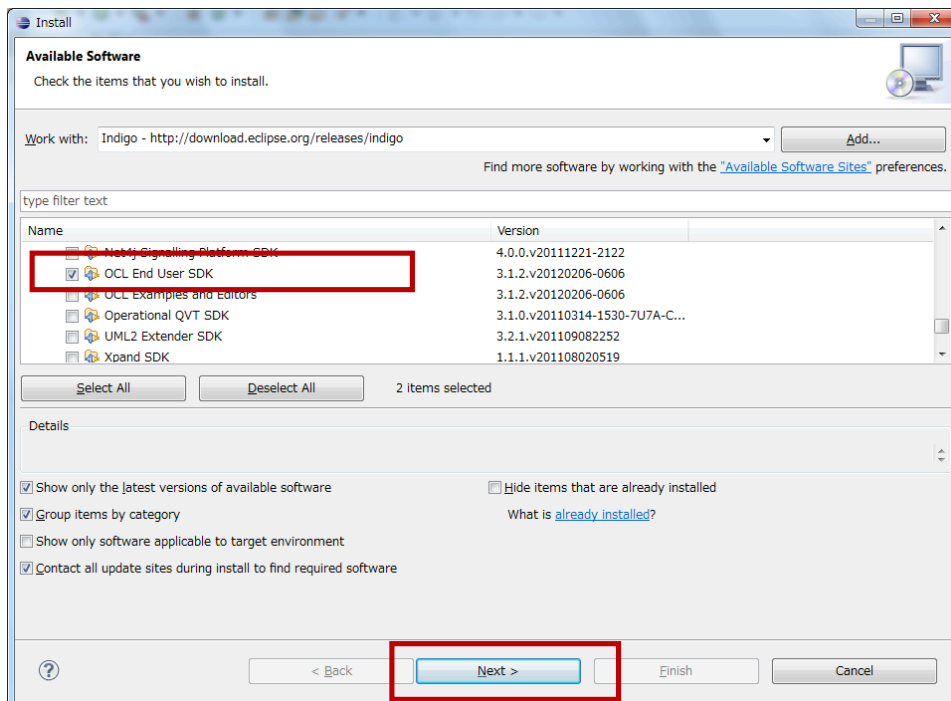
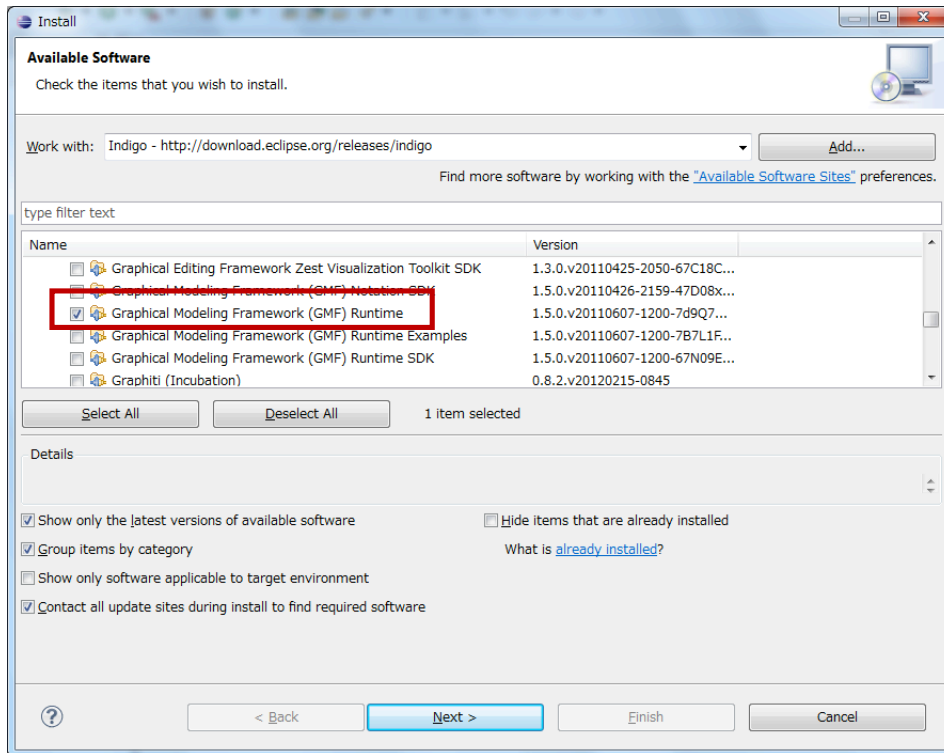
「Help>Install New Software...」メニューを選択します。



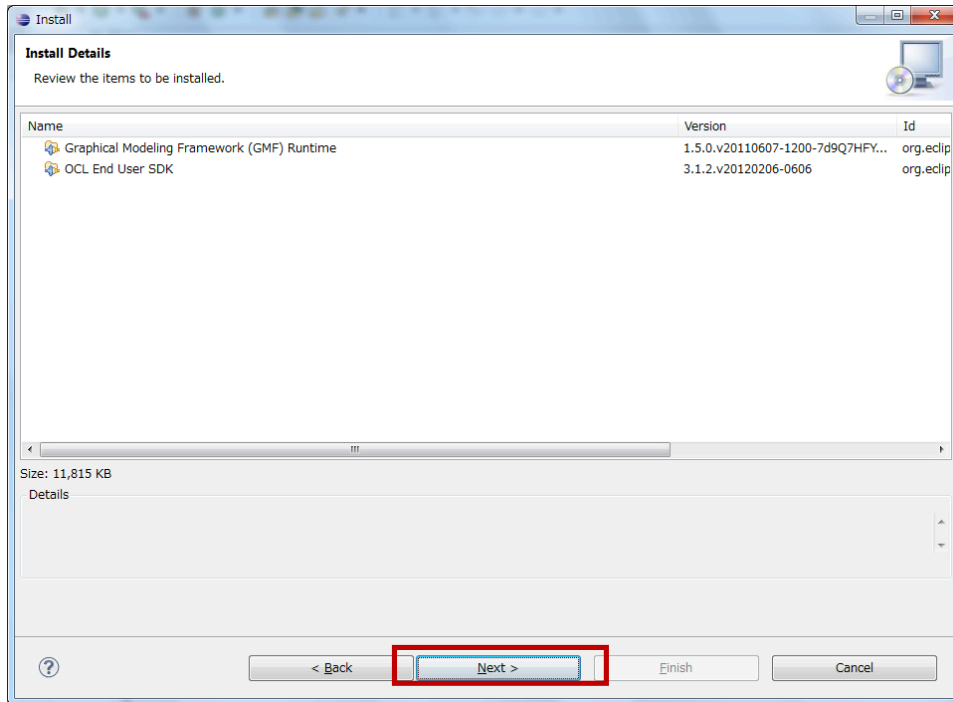
Work with で Indigo を選択し、一覧に表示された「Modeling」を展開します。



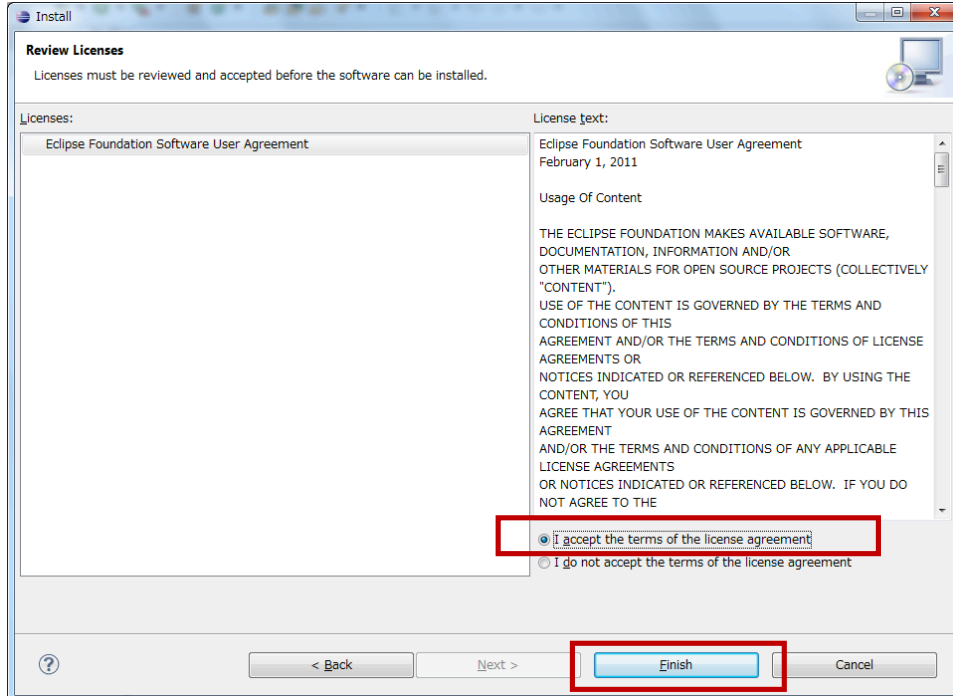
「Graphical Modeling Framework (GMF) Runtime」および「OCL End User SDK」にチェックを入れて「Next」ボタンで先に進みます。



「Next」ボタンで先に進みます。



ライセンスに同意することを選択し、「Finish」ボタンを押します。



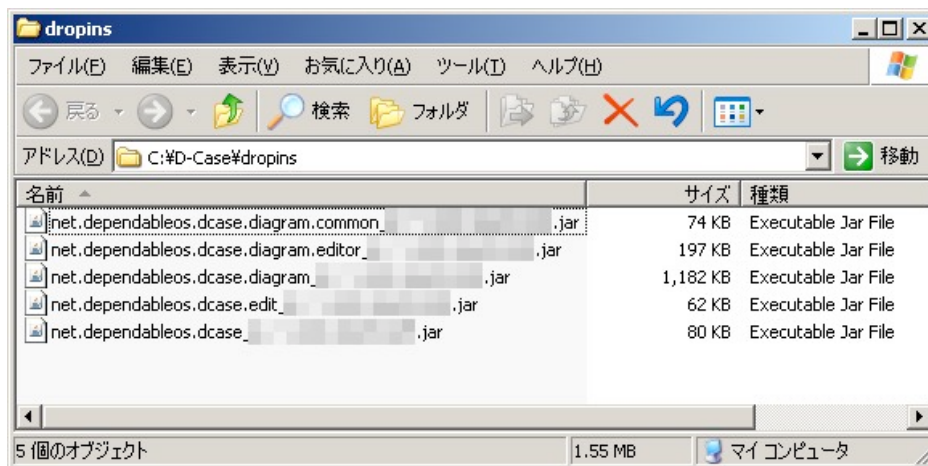
プラグインのインストールが始まり、終了すると再起動の確認が出ますので、Eclipseを再起動します。

問題なく起動した場合は、一度 Eclipse を終了します。

5. D-Case のインストール

5.1. jar ファイルのコピー

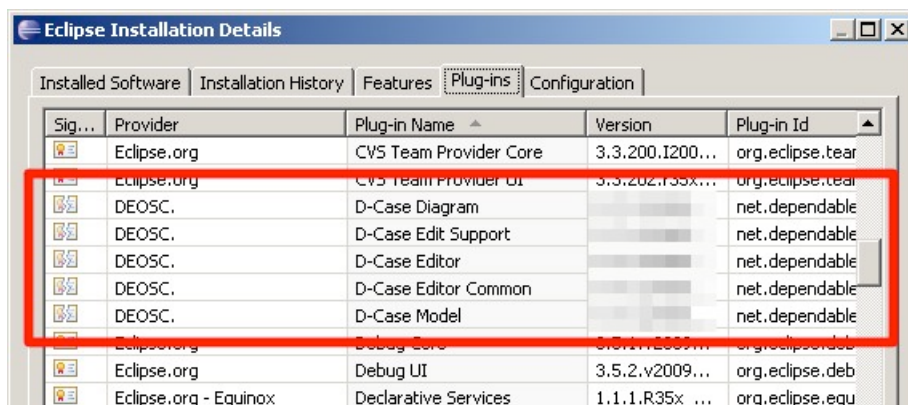
Eclipse の「dropins」フォルダに、「D-Case エディタ」の jar ファイルをコピーします。



5.2. 起動確認

Eclipse を起動し、「Help>About Eclipse」メニューからダイアログ画面を開きます。

「Installation Details」ボタンより、コピーした jar ファイルが認識されていることを確認できます。



6. テンプレートプロジェクトのインストール

6.1. 準備

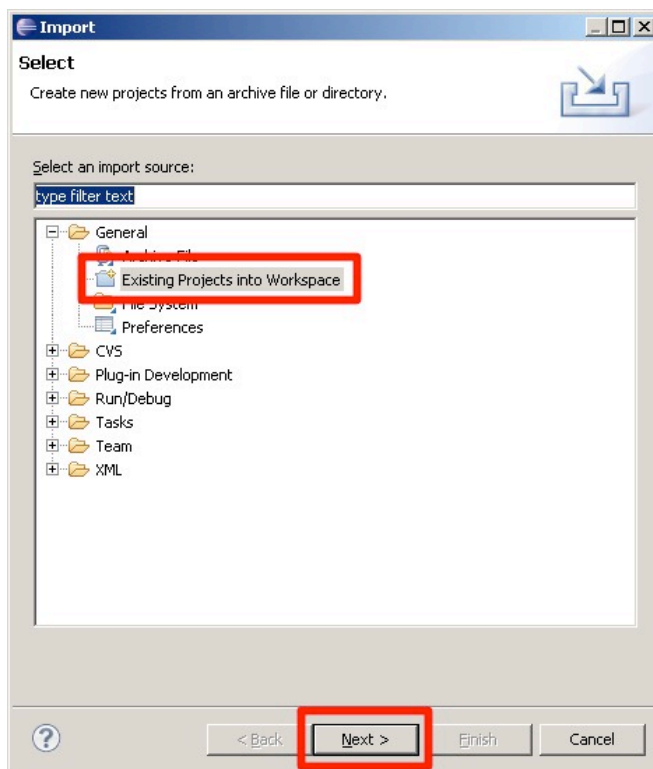
テンプレートプロジェクト「D-CaseTemplate」を任意のフォルダにコピーします。

6.2. インポート

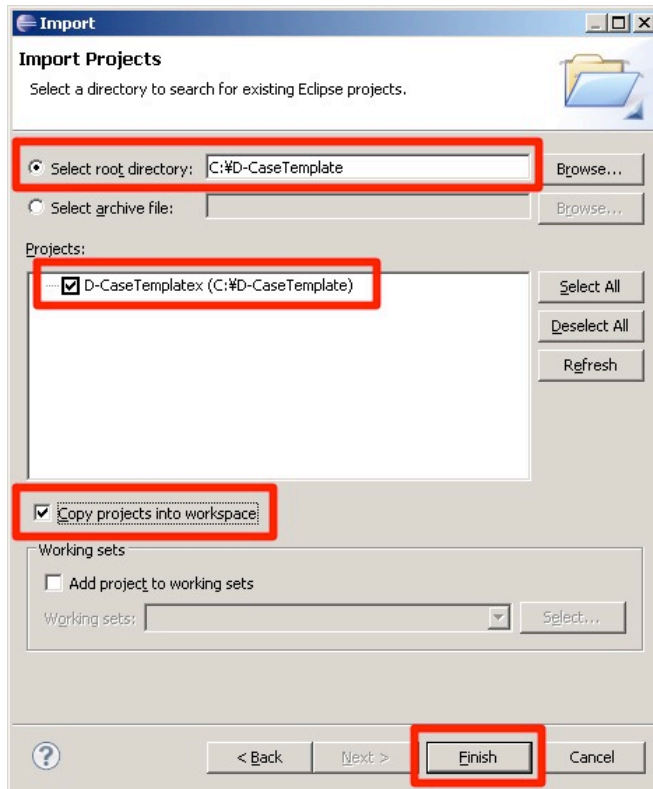
テンプレートプロジェクトをワークスペースにインポートします。

Eclipse の「File>Import」メニューを選択し、インポート画面を開きます。

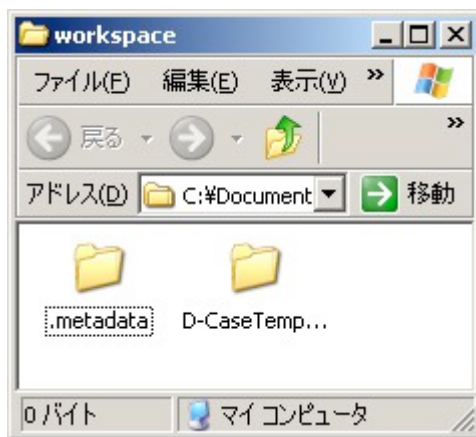
「General-Existing Projects into Workspace」



「Select root directory」にコピーしたフォルダを指定し、「Copy projects into workspace」にチェックを入れて「Finish」ボタンを押します。



インポートが完了すると、テンプレートプロジェクトがワークスペースフォルダにコピーされます。



7. EPS 出力サポート

EPS 出力機能の設置手順を説明します。

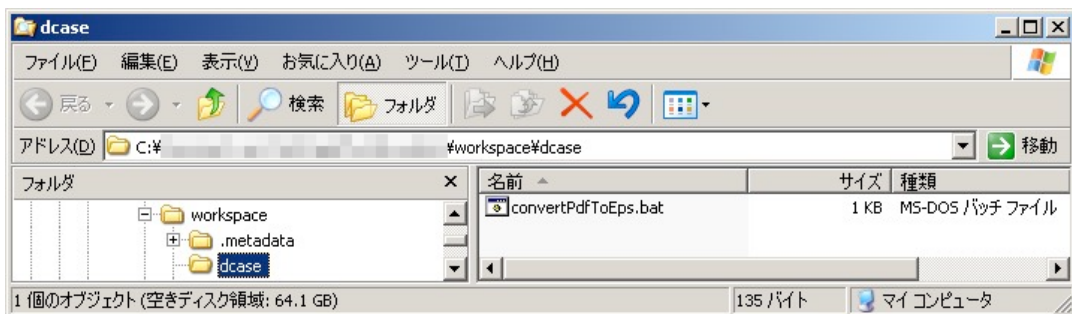
7.1. 変換ツールのインストール

下記の URL より、変換ツール (GhostScript) をダウンロードし、インストールを行います。

<http://downloads.ghostscript.com/public/gs871w32.exe>

7.2. 変換シェルの配置

EPS ファイル変換シェルは、「convertPdfToEps.bat」という名称で、以下のようにワークスペース直下に「dcase」というフォルダを作成し、その配下に配置します。



ファイルの内容は下記の通りで、「C:¥Program Files」の部分は、変換ツール (GhostScript) のインストール先に書き換えます。

```
@echo off
set PATH=%PATH%;C:\Program Files\gs\gs8.71\bin;
gswin32c.exe -dNOPAUSE -dBATCH -sDEVICE=epswrite -sOutputFile=%1 %2
exit
```